

災害復旧事業によせて

台風23号災害復旧事業について



兵庫県洲本市市長
柳 実 郎

1. わがまち、洲本市について

平成18年2月11日、洲本市は旧津名郡五色町との合併により新しい洲本市に生まれ変わりました。

新しく誕生した洲本市は人口約5万人、総面積182.46平方キロメートル。淡路島の中心に位置し古くから島の行政、政治、経済の中心として発展してきました。

温暖で降水量の比較的小さい瀬戸内気候に恵まれ、農業や畜産などの第1次産業が盛んに行われています。

本市が位置する淡路島は古くから御食国（みけつくに）のひとつとして、山海の幸を大和朝廷に献上した食材の宝庫で、淡路島の玉葱や淡路牛（ビーフ）などは全国的に有名なブランドとして広く知られています。

また、本市は数多くの文化人を輩出しており、本市の名誉市民で数多くのヒット曲を手がけられた、昭和を代表する偉大な作詞家であり作家の阿久悠氏（故人）も幼少期をここ洲本で過ごされました。

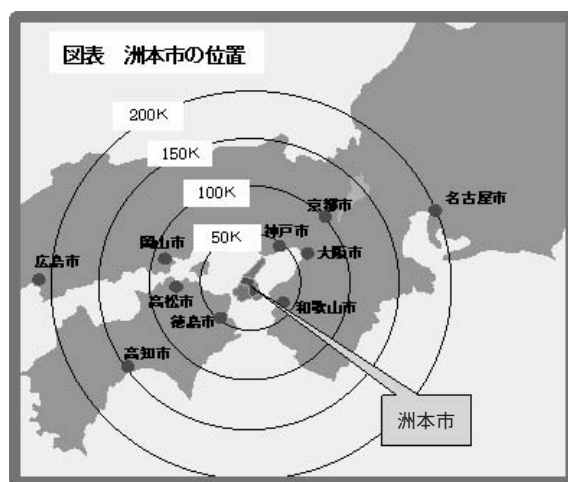


図-2 洲本市の位置

平成10年には世界最長の吊橋である明石海峡大橋が開通し、淡路島は本州、四国と陸続きとなり、本市は島の中核として島内外の人・もの・情報が集まる重要な拠点となっています。

自然豊かで、食の宝庫である淡路島にお越しの際は、ぜひここ洲本市にお立ち寄りください。

2. 台風23号災害について

平成16年10月13日9時頃にマリアナ諸島付近で発生した台風23号は、非常に大型で強い勢力をもって、19日本州に向け北上。

20日13時頃、中心気圧955hPa、最大風速40m/sの勢力で高知県に上陸、淡路島には16時頃最接近しました。

本市では19日から20日にかけて総雨量372mm（洲本観測所）、最大1時間雨量71.5mmという記録的な集中豪雨となり、非常に強い雨をもたらしました。

この台風23号による本市の被害は、住宅被害で全壊406棟、半壊1,552棟、一部損壊89棟、床上浸

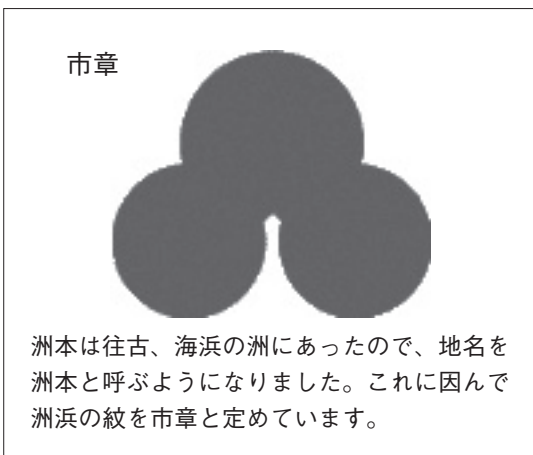


図-1 市章

洲本は往古、海浜の洲にあったので、地名を洲本と呼ぶようになりました。これに因んで洲浜の紋を市章と定めています。



写真-1 崩落し原形をとどめない県道鳥飼浦洲本線



写真-4 護岸が破壊され、破堤した加茂地区



写真-2 通行機能の麻痺した県道洲本五色線



写真-5 辛うじて残った大森谷橋上・下部工



写真-3 洲本川が氾濫し溢水した物部地区



写真-6 水が橋上にあふれ出した物部橋



写真-7 浸水した商店街付近



写真-10 善意のボランティアによる清掃活動



写真-8 廃棄された大量のゴミの山



写真-11 自衛隊による給水活動



写真-9 他自治体からの心強い応援



写真-12 体育の授業で清掃活動(洲本高校)

水224棟、床下浸水1,211棟、浸水面積は292haにも上り、またこの災害により5名の尊い命が奪われ、11名の重軽傷者の人的被害も出ました。

市内の公共土木施設や農林水産関連施設への被害も甚大なものとなりました。被害状況は河川災害130件、道路災害370件、橋梁災害19件の計519件、被害総額は約40億円。

農林水産関連被害額も85億円を超える未曾有の大災害となりました。

水禍の去った後は見るも無残な光景でした。昨日まで見慣れた美しいまち並みが一変し、まちは濁流と化した河川により何もかもが大量の泥とゴミに埋もれました。

床上まで侵入した泥水は、市民の皆さんの大切な財産を一瞬にして、容赦なく奪いました。

泥まみれになりながら、つい数日前まで使っていた大切な家財道具を惜しみつつ廃棄する姿を思い出すと、胸が締め付けられる思いがいたします。

山積みになったゴミの量だけ、市民の皆さんの不安や苦しみがそこにあるのだと、ひしひしと感じました。

それらを取り除き、小さな不安を少しずつ解消していくことこそ、復旧、復興、そして何気ない常を取り戻す足掛かりでした。

復旧、復興については市民の皆さんを始め市職員、市内外から応援に来てくださった善意のボランティアの方々、他自治体関係者、自衛隊、消防関係者の皆さん、また温かい義援金やお見舞金、物資を支援してくださった方々、その他大勢の力、思いが一つとなりました。



写真-13 ボランティアセンターには人があふれました

皆さん自分たちができることを少しずつ積み重ね、まちは日に日に、元の姿を取り戻していきました。

3. 災害復旧事業について

台風23号による激しい集中豪雨による記録的な雨量と強烈な濁流により、甚大な被害が発生した、本市のシンボリックな河川である洲本川（2級河川）について、平成16年12月27日、河川管理者である兵庫県は河川激甚災害対策緊急特別事業の採択を受け、続く平成17年3月1日洲本川上流部の支川（奥畑川、鮎屋川、猪鼻川）について改良復旧事業の採択を受けました。

激甚災害対策緊急特別事業については事業期間が平成16年度から平成21年度までの5箇年となっており、この期間内に全ての工事を完成させる計画で、事業延長約10.0km、流域面積86.5km²、総事業費221億円。15橋の橋梁架け替え工事その他井堰等の取水施設の復旧工事を行い、改良復旧事業については事業延長約7.0km、総事業費27億2,000万円。5橋の橋梁架け替え工事と井堰等の取水施設の復旧工事を行います。

これらの災害復旧事業では平成16年の23号台風の推定最大流出量が流れるように、河床掘削、拡幅、築堤等の改修を行います。

災害からの早期復旧、復興を切に願う市民の方々の厚いご支援、ご協力を賜り、おかげさまで災害復旧事業の方も着々と進んでおります。

頑丈な護岸や美しく蘇った橋梁などを目にしますと、災害からの復旧、復興のシンボルのようで、



写真-14 激甚災害対策事業第1号の完成（洲本川：大森谷橋）

誇らしい限りです。

既に工事を完了した鮎屋川などでは、ホタルの生息が確認され、工事においてはホタルブロックというホタルの住みやすい環境まで考えた工事を行い、完成した河川では地元の方々とイベントを開き、互いに完成の喜びを分かち合いました。



写真-15 ホタルブロック



写真-16 地元住民とともに祝った完成記念式典
(鮎屋川：鮎屋地区)



写真-17 完成した新しい護岸（洲本川：加茂地区）



写真-18 完成した新しい護岸
(千草川：諏訪橋～野旦田橋)

洲本川河川激甚災害対策特別緊急事業も、あと残り2年を切りました。まだ、工事未着手の箇所もございますが、1日でも早く被災された方々、住民の方々に安心して暮らしていただけるまちづくりをめざします。

4. さらなる飛躍を目指して

台風23号で未曾有の大災害に遭い、かつてない悲劇に見舞われ、思いだすことは辛く悲しい記憶がある訳ですが、しかし、この災害は我々行政だけでなく市民の皆さんも含めて、改めて「防災」に対する意識、対策の重要性を喚起することになりました。

災害後、本市では「防災」に対する意識改革に努め、何時また来るとも限らない大災害に備えるため、「防災」を市の重要施策に位置づけ、災害を未然に防ぎ、また被害を最小限に抑える「減災」をキーワードとし、ハード及びソフト面での対策の整備を早急に取り掛かりました。

まず、ハード面での取り組みとして台風などの降水による浸水対策の一端を担う公共下水道の普及に努め、また住宅の地盤の低い、いわゆる低地帯への内水排除対策としてポンプで強制的に排水する施設の整備も実施しています。

「防災」は水害だけではありません、本市の位置するここ淡路島は近い将来、南海地震の影響が危惧されており、市内小中学校等の公共施設の耐震化工事も順次進めております。

ソフト対策としては、台風23号による被害状況を基にハザードマップを作成し、さらに有効なも

のとすべく、「洲本市防災マップ」を作成し、より市民の方々に分かりやすく、見やすい資料が出来上がりました。

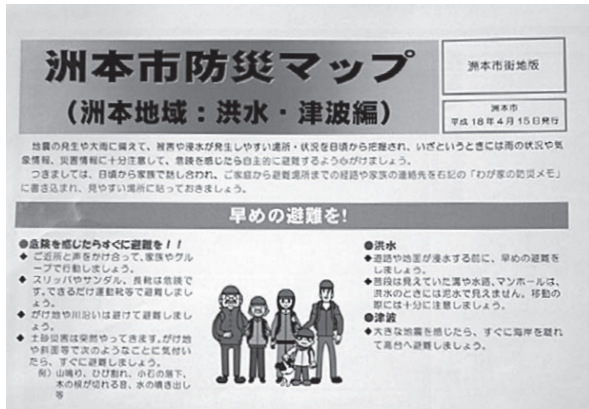


写真-19 「洲本防災マップ」

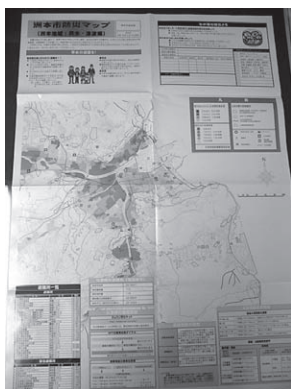


写真-20 洲本市街地図

また、携帯電話の個人普及率に着目し、利用登録するだけでどこでも災害や防災情報を受けられる「ひょうご防災ネット」を立ち上げました。

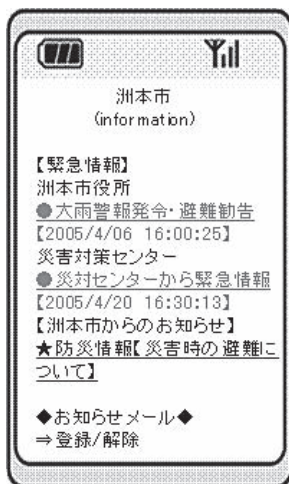


表-1 「ひょうご防災ネット」(イメージ)
<http://bosai.net/sumoto/>



写真-21 内町地区での防災訓練の様子



写真-22 内町地区での防災訓練の様子

市民の皆さんの「防災」への意識も年々高まりつつあり、市が実施した防災訓練にも多くの方が積極的に参加し、本番を想定した内容の中、大変熱の入った、有意義な訓練となりました。

台風23号災害から学んだこと、それは常に初心を忘れず、「想定外」の事態に臨機応変に対応できる準備と覚悟が必要ということです。

本市では災害後、市内の建設業組合と災害協定を交わし、道路等公共土木施設に災害が発生した場合、速やかに応急対策が施せるよう、業者との連携体制を確立しました。

また、市の広報誌に防災関連記事を随時掲載し、防災意識の向上と啓発に力を入れています。

準備に十分すぎることはありません。「二度とあのような辛い悲劇は繰り返さない。」それを常に肝に銘じることで、洲本市は今、災害に強いまちへと生まれ変わりつつあります。